

私の探鳥地（38）（野鳥だより 122号 2000年12月）

ほろたっぶ  
北村 幌 達布（岩見沢市）

佐藤 幸典

私のフィールドは北海道です。その中で良く行く所はやはり近場の北村幌達布（次からは幌達布）です。

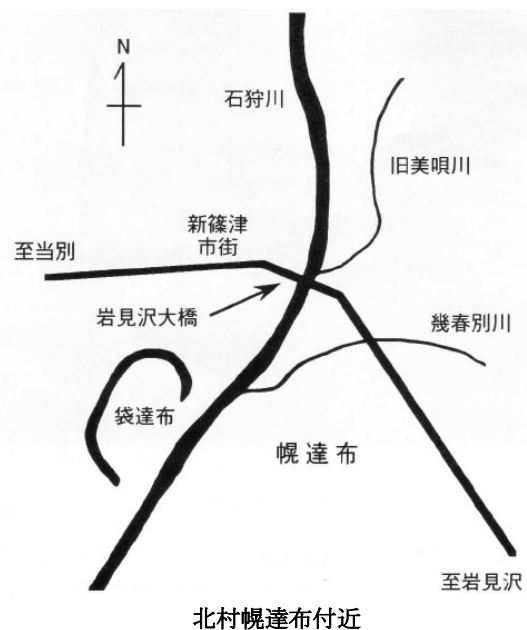
岩見沢から行くと、新篠津に渡る岩見沢大橋の手前で、石狩川の左岸側です。石狩川と幾春別川との合流点、石狩川と旧美唄川との合流点の間。幾春別川左岸で最下流側の河川敷内と堤防外側どちらも見どころがあります。

季節的には草原の鳥が見られる夏場が一番です。目玉は何と言ってもシマアオジでしょう。ノゴマ、オオジュリン、コヨシキリ、ノビタキ、ベニマシコ、モズ、アカモズ、オオジシギ、カッコウ、ショウドウツバメ、カラヒワ、アオジはまず間違いなく見られます。ワシタカではチュウヒがだいたい毎回見られます。時々チョウゲンボウやノスリも見られます。オジロワシが夏に数度見られた事もありました。何とその年は江別で繁殖していたそうです。

今年はシギ、チドリがたくさんやって来ました。コチドリ、タカブシギ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、ヒバリシギ、オジロトウネン、アオアシシギ、クサシギ、オオジシギ、コアオアシシギ等でした。

ウズラも繁殖していますが、声はすれども姿はなかなか見られません。今年は河川敷内の牧草刈りのあとの草丈がすっかり短くなったところで番（つがい）が見られました。♂♀別々には撮影しているのですが、かなり遠目でも番なので夢中でシャッターを押しました。

イソシギやコチドリも繁殖していて、時々レンズの最短撮影距離以内どころか、足下や車の下をチョコチョコと歩き回ることがあります。マクロレンズで写したくなるくらいなのですが、何せじっとしてくれなくて実現していません。



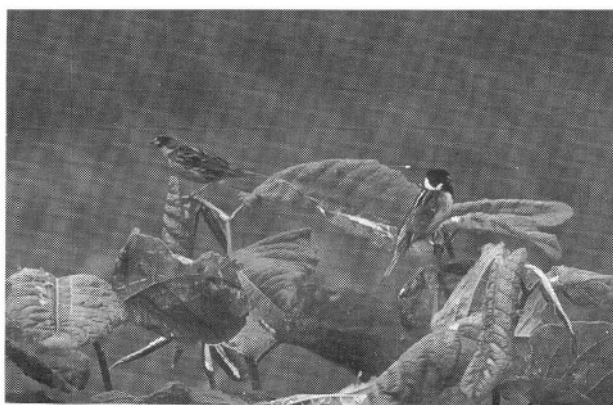
北村幌達布付近

草原なので日差しを遮るものはありません。夏の暑い日はちょっときついですが、夏は暑くなくて。窓もドアも開け放してうたた寝しながら自然の恵みを楽しむのも気持ち良いものです。

この幌達布も今様変わりしています。幾春別川の河口をもっと下流側にとり川筋を変更する工事をしているのです。新しい川筋を掘り起こし、土砂をダンプでどんどん運び出し、側溝ができて一部はコンクリートの護岸工事も進んでいます。

その側溝に今年シギ、チドリがたくさんやって来たのです。ただその側溝もあと数年後には新しい幾春別川の川底になる予定です。工事は多分10年位前から始められていて、側溝が掘られてそのままのところに柳の林ができていました。柳の何本かはソングポストになっています。

その林の脇にシマアオジが繁殖したのです。その巣がダンプの通り道の下になり壊されてしまったのです。壊された後ではどうにもなりません。札幌ではシマアオジが減ってきたとか、全然見られなくなってしまうとか聞きます。資材置場や開発行為のせいではと聞いています。幌達布もやがて札幌のようになるのかと危惧されます。



オオジュリン（右）とアオジ（左）

しかし私はここでの繁殖はこれからもずっと続けられると思っています。単年での動向は気象、工事、その他の諸事情により変動するとは思いますが。私はシマアオジがそんなに華香にはできてはいないと思います。ここで20年近くシマアオジを見てきました。繁殖時期は毎年牧草刈りをしていました。それでも懲りずに又新しい子育てに励んでいます。そして毎年やって来て楽しませてくれています。種の保存はそんなに柔ではないと思います。

それでもちょっと心配な事は、私の目から見た限りでは同じような環境下であっても、幌達布の近隣や対岸の新篠津ではシマアオジを見ていません。私には微妙な環境の違いはわかりませんが、逆にシマアオジはそんなに繊細な感覚の持ち主なのかなとも思います。私が知らないだけで、わかっている人には当たり前の常識なのかもしてませんが、知っている人には是非教えていただきたいものです。

変化激しいこれから数年を、色々な意味でじっくり見届けて行きたいと思っています。